

受講番号 19093 学校名 黒岩中学校 氏名 米川 麗子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 7名
科目名 1年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 1(三省堂)

クラスの様子・特徴

大変意欲的に英語学習に取り組んでいる。特にゲームやペア活動に喜んで取り組んでいる。“理解”や“覚える”ことに時間を要する生徒が複数名いる。そこで、英文をスラスラ読めるようにするために時間をかける必要がある。

問題の確定

耳で聞いてわかっていることでも、なかなか音と文字が結びつかず読めない。英文を読める力をつけていきたい。

予備調査

A 授業の観察

全員の生徒が大変意欲的に授業に取り組んでいる。声を出すことも嫌がらない。しかし、自信がないことになると声が小さくなる生徒もいる。読みの練習時間を設定するとスラスラ読めるようになり、英文への抵抗感も少なくなる。

B 生徒による授業評価

授業の進め方や説明には、肯定的評価をしている。また、「“本読み”は恥ずかしいけど練習を重ねることで読めだした」と答えている。「スラスラ読めるようになりたい」と思っている生徒が多い。

C 学力データ

1学期の中間・期末テスト合わせての平均が86点で、学習内容をよく理解できているし、家庭学習も定着している。聞き取り問題はよくできている。しかし、“読み”を多少苦手とする生徒は、適語を入れる問題や語順の問題はあまりよくないことがわかる。

リサーチ・クエスチョン

自然なリズムやイントネーションで英文を読む力をつけるにはどのように指導すればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

音と文字のむすびつきを習得するために、フォニックスを指導することで、読めるようになるだろう。

実践1

1学期に、warm-up としてフォニックスを指導した。CDについて言う練習を数時間繰り返しおこなった後、個別に文字の発音テストを実施した。アルファベット26文字の発音、母音の発音、特徴的な子音の発音の順で指導していった。

検証1

フォニックスもあまり複雑なものは負担になると思い、ごく基本的なものを指導したが、それだけでも読みやすくなった生徒が増えた。読みづらい単語が出てきたときは“音”を思い起こさせることができたし、逆に書くことの手助けにもなった。アンケートでも「“音”がわかって読むときにわかりやすくなった」と答えていた。

仮説2

英文を聞く機会を多くすることで、リズムやイントネーションを身につけることができるだろう。

実践2

授業のwarm-up として、CDについてのチャンツや英語の歌を取り入れ、リズムを身につける指導をした。また、かぶせ読みやシャドーイングはゲームのように数回取り入れた。教科書の“TALK”のところでは、1語をペアで変えての練習で対話をおこなった。

検証2

チャンツを取り入れることで、英文が無理なく身につけてきた。新しいチャンツに入ったばかりの時にはあまり声が出ないが、繰り返すうちに自信をつけて大きな声で歌えるようになった。また、1語を変えての対話練習では、より気持ちを込めて自然に言うようになった。計画していたかぶせ読みやシャドーイングをもっと入れたらよかった。

仮説3

意味がわかったうえで、読む時間を多く取ることで、Reading への抵抗感も少なくなり、“読める”喜びも持てるだろう。

実践3

2学期には本文の意味を先渡しして、Reading にかける時間を増やしていった。また、一斉読み・ペア読み・ペアでの1分読みなど、様々な方法でReading 練習をおこなうようにした。Reading テストを学期に3回おこなった。

検証3

本文の先渡しで、Reading や他の活動に時間を多くかけられるようになった。英文を読む力をつけるにはある程度のスピードも必要で、それになれるのに1分読みは効果的だった。生徒たちもゲーム感覚で喜び、スラスラ読める生徒が増えてきた。アンケートでも「スラスラ読めるようになってうれしい。」とか「もっと英文をスラスラ読める力をつけたい。」という声が多かった。

研究の成果

教師の方が意識的にReadingの時間をふやし、色々な方法を用いたことで、読み練習も単調にならず生徒も意欲的に取り組むようになった。練習を多くすることで読みの自信を持ち、大きな声で読めるようになった。やはり、「英文をスラスラ読みたい」という希望が強く、“読める”から“わかる”へとつながることも実感できた。何よりも教師自身がリサーチ・クエスチョンを意識することで、様々な工夫や方法を授業の中へ取り入れることができた。

今後の授業改善の課題

授業の中での練習を充分することで、読めるようになり、自信につなげていけることがわかった。今後英文が難しくなっていく時にも、意味の先渡しなどの工夫で、読み練習の時間をできるだけ多く取って自信を持たせるようにしていきたい。また“読み”から“書き”へ力をつなげるために、文の構造学習も合わせて指導していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-22-9326